

**「ツグミ」千里の鳥・万博の鳥 (A4版第39回)**  
**(千里タイムズ2015年12月号原稿)**

シベリアに秋が来ると、子育てを終えた鳥たちは旅を始め、越冬地の日本に渡ってくるが、日本で過ごす冬鳥で、最も身近に観察できる鳥はツグミである。

ツグミは体長24cmと大きめの小鳥、渡ってきた当初は人の少ないシベリアから来たこともあって、山地の樹林にいるが、次第に平野部に下りてきて田畑・河原、そして公園や住宅地内の空き地に姿を見せる。

この様に日本に渡ってくるツグミ、今は野鳥保護思想の普及と密猟対策の徹底から、少なくなったと思われるが、戦前～戦後にかけてカスミ網猟により数十万羽、いや数百万羽という大量のツグミが捕獲され、焼き鳥用として酒場で利用されてきた悲しい歴史を持つ。

万博公園で渡来したばかりのツグミの姿が見られるが、今は高い木や人から見えにくい所、クスノキの樹冠などにおいて実を食べている。そのうち木の実が少なくなり芝生に降りて虫探しを始めるので、良く観察できるようになる。

ツグミは虫を探して芝生上を歩く時、数歩歩いて胸をそらし姿勢よく立ち止まり、また数歩歩くという行動を繰り返す特徴がある。大きさがほぼ同じムクドリは、常に歩いて動き回って餌探しをしているので、遠くからでも両者の動きの違いが分かる。

さて今月の写真は、ツグミ（とカワラヒワ）が水浴びしている。羽は鳥が飛ぶための命、不潔にしておくとも、虫がついたり病気の原因になるため、水浴びで汚れ落としていく。羽の手入れは一年中、夏はもちろん、寒い冬でも盛んに水浴びをする。

水浴びの後は羽づくろい、濡れて乱れた羽を1枚1枚丁寧にとかして揃え、更に尾のつけ根にある油脂腺から嘴で脂をとり羽に塗る。羽に脂で水をはじく(防水加工をする)ことで、小雨であれば飛ぶことができ、また水がしたたると思われる木の葉かげで雨宿りをする。

ツグミは万博公園に11月初旬頃から滞在、来年5月頃繁殖地に向け出発するまでの半年間、木の実や虫を餌にエネルギーを蓄えて一冬を越していく。

日本野鳥の会大阪支部主催

**万博公園定例探鳥会**

アトリ・ジョウビタキ、そしてツグミなど冬鳥が種数・個体数とも日に日に増える季節、どんな冬鳥に出会えるか、楽しみに園内を一巡する。

日時 12月12日(土)9:30～15:00

集合 自然文化園中央口

解散 日本庭園の予定

担当 足立道成氏他

持ち物 筆記具・名札・弁当、あれば双眼鏡・野鳥図鑑。

服装 ハイキングと同じ。

参加費 大阪支部会員100円、非会員200円  
他に万博公園入園料250円が必要

吹田野鳥の会主催

**千里緑地探鳥会**

冬になると吹田市内の池や樹林に冬鳥が来て賑やかになる。王子池、そして高町池～ぼだい池へとカモや小鳥を楽しみながら、高野台～佐竹台の外周、千里緑地を一巡する。

日時 12月23日(水祝)9:00～14:00

集合 阪急山田駅1Fバスターミナル

解散 佐竹公園ぼだい池付近の予定

担当 平 軍二氏他

持ち物 弁当・筆記具・名札・双眼鏡・野鳥図鑑。

服装 ハイキングと同じ。時節柄防寒に留意を  
参加費 吹田野鳥の会会員無料、非会員200円

問い合わせ 090-6901-1425 (平<sup>ひら</sup> 軍二)  
メール: g-hira@nifty.com

\*\*\*\*\***(写真)**\*\*\*\*\*

種 名: ツグミ

撮影年月: 2014年12月15日

撮影場所: 万博公園

撮影者: 有賀憲介